

北海道文教広報

25

January
2011

学校法人 鶴岡学園 北海道文教大学

北海道文教大学大学院 北海道文教大学明清高等学校
北海道文教大学短期大学部 北海道文教大学短期大学部附属幼稚園



2011年度本学恵庭キャンパスの拡充整備計画発表される。

学生支援に重点をおいた「8号館」「サークル会館」の新築計画固まる。
2010年12月21日開催の評議員会・理事会の議を経て、2011年1月6日恵庭キャンパスで開催された鶴岡学園新年交礼会において、本学理事長・学長である鈴木武夫先生より年頭挨拶の中で全教職員に、2011年度恵庭キャンパスの整備計画が発表されました。

人間科学部における医療系3学科の新設、短期大学の4年制大学への改組転換、外国語学部の新編新学科スタート等、ここ数年は変革の期間であり、6年後にはさらに大幅な受験人口減が明らかなることから、さらなる学部・学科の増設や定員増などを慎重に検討し対応していかなければならないとし、2011年度はこれら既設学科の実を高める年と位置づけ、学生支援を優先する意味でも次の施設拡充計画を実施することを明らかにされました。

その第一は本館（6号館）の東並びで、5号館（看護・作業実習棟）南隣の位置に新たに「8号館」を新築する。その規模は建築面積が692.92㎡、延床面積3,370㎡でRC造5階建てを計画。1階は多彩な活用が期待できる学生ラウンジとし252席以上を設置しパントリーや自動販売機コーナーを設置する。2～4階は講義室・ゼミ室とし、60～63名収容の小教室を7教室、120名収容の中教室を4教室、20名収容のゼミ室を7室配置予定。5階は多目的教室とし今後計画を睨み再整備する。2011年5月中旬に着工、12月末竣工を予定しています。外観は本部棟と並ぶ位置

関係となることから、建築資材・色彩を配慮し統一感のあるものとする予定です。第二

は「サークル会館」を体育館北側に新築、建築面積226.8㎡、延床面積453.6㎡の2階建て、1階は学友会室・部室5・小ホール・男女トイレ、2階は部室9を配置する計画です。こちらは学生の強い要望に込める意味でも2月末に着工し、ゴールデンウィーク前の竣工を予定しており、早ければ5月よりの使用が可能となりそうです。その他にもCL教室のコンピュータ機器の新バージョンへの入れ替え等も予定されており、新年度も本学教育環境が一層充実したものに整備される計画年となることが予測されます。



地域に開かれた大学



北

北海道文教大学外国語学部国際言語学科が新設されたことを記念して特別講演の第2弾「小檜山博講演会」が10月15日、大講堂で開催された。第1弾の「音楽を通じた国際教育支援—ジンバブエの輝く子どもたち」（7月2日）に続く企画である。当日は一般人120名、本学学生260名参加し盛会であった。

小檜山博氏は1937年、柴岳で有名な滝上町の開拓農家の三男として生まれた。苫小牧工業高校電気科を卒業して北海道新聞社工務局に入社。小説を書いていることを考慮してくれた新聞社の計らいで東京支社勤務となり、多く

の作家を育てた「文芸首都」に参加して創作に励んだ。8年後の1969年、本社に戻り「札幌文学」の同人となった。同誌に発表した「低いままの天井」が「文学界」に転載されてデビュー。「出刃」（北方文芸）1976・5が第1回北方文芸賞受賞作となり、芥川賞候補にもなった。以後、「光る女」で泉鏡花賞、「光る大雪」で木山捷平文学賞などを受賞し、2005年には北海道文化賞を受賞している。2006年には札幌の柏艸社から小檜山博全集全8巻が刊行された。現在、鹿追町の神田日勝記念美術館館長、北海道文学館副理事長を務めている。

外国語学部 国際言語学科 「ひとりでは生きられない」 新設記念 特別講演会 小檜山博氏講演 開催

「ひとりでは生きられない」という題目通り、高校で寮費滞納のため食事を止められた時、後輩の3人が自分たちの分から削って食べさせてくれたこと、農家のいもを盗んで見つかり警察沙汰になろうとした時、その奥さんが亭主を制止し、翌年には学生用の畑を作ってくれたこと、その話を講演でしたあと、その農家の娘だった人が30年ぶりに声をかけてくれたという話をしみじみと語った。貧しくひもじい青春でふれあった人情が自分を成長させてくれたという。

学生には、挫折を恐れるな、挫折は人を向上させると話した。若いときに高い理想をもって挑戦し挫折を糧として前進することを説いた。また、働くということとは親から受けた恩を社会に還元することだと力強く話した。「生きる力」とは、他人の心を感じ取る力、他人と協力しあう力、自分の心をコントロールする力だと言った。

会場から学生が、一貫して北海道を題材にしている理由を質問したのに対し小檜山氏は、日本でどうしても書きたいテーマを持っているのは沖繩と被差別部落と北海道だと自信をもって答えていた。また小説を書いている学生には、自分の好きな作家の作品を暗記するぐらい読み込めと言い、自分は志賀直哉、嘉村磯多を愛読していると語った。

講演終了後、「出刃」「光る女」に続く3部作「漂着」（柏艸社、2010）のサイン会があり、多くの市民が本を購入してサインをしてもらっていた。

国際交流「よさこい」

ロシア・サハリン学生「よさこい」選抜チームが本学を訪問。



ロシア色豊かな衣装で踊りを披露

10

月1日、北海道文教大学大講堂において、人間科学部こども発達学科発足記念シン

ポジウムが、「幼小保育教育の充実と連携をめざして」というテーマのもとに、恵庭市民や学生約150名の参加により開催されました。

コーディネイターの後藤守教授(本学子育て教育地域支援センター長)の人間味あふれる司会に始まり、佐藤信雄教授(こども発達学科長)が基調提案を行いました。佐藤教授は、この中で、わが国における社会変化にともない、子育て・教育の充実のためには、保育、幼児教育、学校教育、特別支援教育の連携が求められており、これに応えるために、子ども発達学科が構想され、設置に至ったと力説しました。

これを受けて、パネリストの鈴木重男准教授は、特別支援教育の立場から、保育・教育の基礎に特別支援教育が位置づけられなければならないとし、少子化の中にありながら、特別支援学校の児童・生徒が増加する傾向にあることを指摘して、保育・教育における特別支援教育の重要性が増していると報告しました。小田進二准教授(本学附属幼稚園長)は、保育・幼児教育政策の現段階に触れ、幼児二元化への動きの中で、保育園、幼稚園、認定こども園の鼎立が続くを見て、この状況への適切な対応と支援が必要であると語りました。大滝まり子教授は、小1プログラムなど幼児保育教育と小学校の連携を強化しなければならぬ課題が多いことを指摘し、これを



「幼小保育教育の充実と連携をめざして」 こども発達学科発足記念シンポジウム

幼小どちらかの問題とせず、こどもの発達援助という共通の視点でとらえ直すことが必要であると訴えました。伊藤想市氏(前恵庭市立図書館長)からは、恵庭市における子育て支援の取りくみにつ

いて、とくに、全国に知られるブック・スタートなどの読書推進の活動を中心とした紹介があり、会場からは感嘆の眼差しが寄せられました。

討論に入って、コメンテーターの川端香代子氏(北海道教育庁義務教育課主査)からは、幼小の連携は子どもの交流、先生方の交流などでは進んでいる面もでてきているが、教育課程の交流など遅れており、幼・小の先生方それぞれの伝えたいこと、知りたいことがずれているなど、意識の違いが見られるので、これを克服することが課題であるとの見解が示されました。加えて、道の策定した「幼児教育すこやかプラン」の紹介がありました。同じくコメンテーターの北川聡子氏(社会福祉法人麦の子会施設長)からは、今日、子育てや親子関係に困難が増しており、施設の職場でも、こうした状況での子どもや親に対応できる専門知識を勉強している。厚生省の子育て支援プランの中でも障害児への視点が薄かった過去があったが、この点、本学では、保育者・教員養成の中に、特別支援教育がしっかりと位置づいており、意欲ある試みだと思ふ。熱いハートに専門知識をたくさんかかえた若い人たちが育ってくれることを期待していると、本学への励ましのメッセージをいただきました。

こども発達学科のこれからの方向を見極めるにふさわしいシンポジウムであったといえます。パネリスト、コメンテーターのみなさん、討論を盛り上げてくださった参加者のみなさんに心から感謝申し上げます。

札

幌で毎年6月に行われている「よさこいソーラン」祭り今年初めてサハリン学生選抜チームが出場しました。

チームの主要メンバーは、サハリン国立総合大学の教職員と学生たち、総数33名から構成されていました。

本学は、2000年にサハリン国立総合大学と学術交流を提携し、活発に学生交流、教職員学術交流などを行っています。その縁で今回のサハリンチームの本学訪問が実現しました。

6月14日、快晴のもと、多くの学生たちが見守る中、サハリンチームと本学の学生チームがそれぞれの踊りを披露しました。その後、学生食堂で昼食をともにして歓談し、授業などに参加して交流を深めました。

サハリンチームの衣装は、昔からロシアを象徴する青と白を基調とした色使いで、ロシア色豊かな色彩は快晴の空とあいまってとても映えていました。また、ロシア民謡をソロで歌った女子学生の声量豊かなすばらしい歌声には見学者一同魅せられてしまいました。

サハリン学生選抜チームは来年もぜひ交流をしたいとの声を残して、本学を後にしました。「いつかサハリンで踊りたい！」そんな声も聞こえてきました。

本学の学生たちにとっても、語学面での交流だけでなく、このような文化面の交流によって、相互理解をさらにいっそう深めるいい機会になったものと思います。



地域に開かれた大学

本

学では、多くの方に生涯学習の機会を提供できる地域貢献・社会貢献を目的・目標とした公開講座を開講しております。身近な暮らしや文化を伝える講座、栄養から身体までの健康に関する講座など、外国語学部と人間科学部の特色を生かした講座となっております。

今年度は共通テーマを「ことばと心の豊かさ」として掲げ、国際言語学科、健康栄養学科、理学療法学科、作業療法学科、看護学科、こども発達学科6学科の専門的な内容をテーマに副って計画し、「心をつかむ英会話」「海藻って



母と子が元気の出る「関係力育成プログラム」実地体験

すごい！毎日食べて健康に「認知症のリハビリテーション」「膝の痛みと上手につきあう方法」「母と子が元気の出る「関係力育成プログラム」実地体験」など、特別学術講演をあわせて19講座を行います。

受講者は述べ約900名で、受講者1000名を超える講座も多くあり、講座後のアンケートでは、「講師自らの経験談を交えた話しは具体的に良かった」「参考資料が配布されていたので、講座内容を理解し易かった」「介護などは悩

平成22年度 公開講座

「海藻ってすごい！毎日食べて健康に」海藻料理の実習形式講座



認知症のリハビリテーション講座

みすぎずに周りに相談したり、気持ちを变えて一息つくことを知り、とても気持ちに楽になった」「身近な材料で安く健康に良く美味しい料理が作れた」など大変好評をいただいております。

その中でも受講者の多かった講座「よくわかる脳血管障害」講師・理学療法学科教授 松本博之のアンケートに、皆さんが今後は意識して生活したいと感想を述べていた「脳卒中予防の十ヶ条」を紹介いたしますので、是非、参考にしてください。

「脳卒中予防の十ヶ条」

- 1 手始めに、高血圧から治しましょう
- 2 糖尿病、放っておいたら怖い残る
- 3 不整脈、見つけ次第すぐ受診
- 4 予防には、煙草を止める意志を持って
- 5 アルコール、控えめは薬、過ぎれば毒
- 6 高すぎる、コレステロールも見逃すな
- 7 お食事の、塩分・脂肪、控えめに
- 8 体力に、合った運動、続けよう
- 9 万病の、引き金になる太りすぎ
- 10 脳卒中、起きたらすぐに病院へ

図

書館本館は、ワンフロアの開放式を取っているため、利用者は全ての図書を直接閲覧することが出来ます。現在、閲覧室の総座席数は186席で、そのうち1人用キャレデスクは27席あります。

図書館竣工(平成10年12月)以来12年が経過し、その間、新たに4つの学科(理学療法学科、作業療法学科、看護学科、こども発達学科)が新設され、蔵書及び学生数が急速に増加した。このことに伴い、閲覧座席の不足及び書架スペースの狭隘化が急速に進行している。蔵書スペースの確保対策として、年度計画で順次集密書架を増加してきたが、図書館としての蔵書の管理・運営方法の再検討が緊急の課題となっており、閲覧座席数も大幅に増加することが課題となっていた。

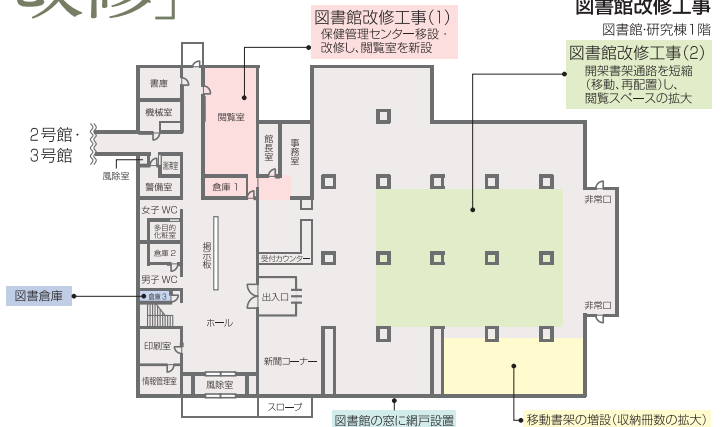
このような状況を踏まえ、建物の増築が困難なことから図書館内の再配置を検討し、閲覧席数の増加等の要望解消及び学生等の学習環境改善を図るため、



「鶴岡記念図書館の改修」

図書館改修工事

- 図書館改修工事(1) 保健管理センター移設・改修し、閲覧室を新設
- 図書館改修工事(2) 開架書架通路を短縮(移動、再配置)し、閲覧スペースの拡大



閲覧室の増設等の改修工事が8月17日から9月17日の日程で施工されました。なお、閲覧機・椅子等の増設・再配置、移動書架等の増設・再配置については、平成23年度から実施することとなります。

《改修工事の主な概要》

- 保健管理センター、カウンセリಂಗールームの移転(1号館1階へ)
- 新閲覧室(40席)の増設(旧保健管理センター、カウンセリಂಗールーム等改修)
- 開架書架の通路幅短縮による閲覧機スペースの確保(24席増確保)

本学が在る恵庭市は「花の街」として、道民であれば知らない人は少ないと思われるガーデニングで名を馳せる街でもあります。住宅街のとある家では「白い花」で統一された見事な庭もあり、ガーデニング界では著名な主婦がお住まいと

百花繚乱

聞きます。そんな我町は思いのほか寒暖の差もあり、札幌と比較すると3〜5度の気温差があると感じています。そんな自然環境にあるので、本学では意識して手入れなどしていないにも係わらず様々な花をキャンパス内に見出すこ



ムラサキツユクサ



ツボサンゴ



キボウシ



ウツギ



アヤメ



カルミア

とができます。ここにほんの一部をご紹介しますが学生はもとより本学教職員でも案外気が付かない人も多いのではないかと思います。在籍学生の6割強が女子学生の本学です、まさに百花繚乱の如く才ある人材が溢れているせいか路傍の花など霞んで目に入らないせいかもしれません。

そんなことはありませんよ、傍らの花に気が付き、優しく慈しむ心根を学生諸子はお持ちの筈でしょう。少しずつ構わないので、自らの手でお世話してみませんか、そんな皆さんのゆとりある安らぎの心は医療人としての心の豊かさにも繋がると思いませんか。今、我大学は一面が真白な雪景色のキャンパスですが、まもなく春が来て、また季節は巡ります。是非キャンパスに皆さんの花を見つけて下さい。

去

る10月8日(金)から3日間、第12回北海道文教大学大学祭「榮凜祭」が開催され、9日(土)10日(日)には一般公開をいたしました。

今年度は、大学祭実行委員長の百刈聖君(外国語部日本語コミュニケーション学科2年)が中心となり、テーマ「3D発4D行き」として、「文教大生の全員が大学祭を盛り上げ、文教大生1人1人がアピールし、時間を忘れるほど楽しい大学祭にしていこう。学生同士の交流を深めることで「楽しさ」を生み出していき、思い出に残るような大学祭にしていきたい。」という目的のもと、大学祭実行委員会のメンバーが連日、労を厭わず深夜にまで及んで献身的な準備を進めてまいりました。

その結果、大学教職員、後援会、同窓会、多数の協賛企業様のご協力を賜り、過去最大規模数の58団体が様々な模擬店を出店、恒例の花火や、毎年人気のお化け屋敷、ビンゴゲーム大会をはじめとし、本学が設置する各学科の紹介展示、実習食堂での給食(300円で提供)、カラオケ大会、YOSA KOI、もちつき、今年初めての吹奏楽同好会による演奏など、多彩なイベントを実施、そして、ゲストにバラエティ番組やドラマで活躍中の南明奈さんによるトークショーが開催されました。

当日は、お天気が思わしくない時間帯もありましたが、お足もとが悪い中にもかかわらず、多数のご来客者にお越しいただき、10日には父母懇談会にご出席いただいた400名あまりのご父母の皆様にも、ご息が一所懸命立案した企画の数々をお楽しみいただけたのではないかと思います。



文教元気印 Campus Report

第12回 北海道文教大学 大学祭

榮凜祭開催



大学祭に携わった学生の方々にとっては、大学生活の良き思い出となる充実した期間であったと同時に、全力を尽くした祭が終わった後の、儂さや切なさもお感じのことと思います。早くも、次年度に向けた諸準備に取り掛かっている人もいるとのこと。ともあれ、今年度の大学祭は、こうして、大過なく無事終了いたしました。関係各位の皆様、ご協力ありがとうございました。次年度の大学祭にも、更なるご支援とご指導をお願い申し上げます。(学生課)

仲間を信頼する大切さ。



学友会会長
理学療法学科3年
楠 拓也

私は大学1年の時から3年間、榮凜祭に携わってきました。1年の時は先輩方が少なく1年ながらも企画局長という責任職につき、イベントの企画・立案を作ってきました。先輩方がいないということもあり、過去の資料は少なく、ゼロからつくりあげる企画がほとんどでした。私一人では行うのは難しく、同年の仲間を中心に、そして数人の先輩方からの助言もあって榮凜祭は無事に終えることができました。

苦勞しあう「仲間」がいたからこそ、大学祭「榮凜祭」は成功したのだと実感いたしました。

大学祭準備期間中、過勞がたつたか私は突発性難聴という原因不明の病にかかり、緊急入院をするようになりました。医者には、ストレスからきているのではないかとのことでした。大学祭の準備も佳境に差し掛かっていただけに、1週間程度の入院ではありましたが、とてもショックでした。ただ、そのような忙しい中、大学祭の仕事を終えて面会時間である20:00のギリギリにメンバーが見舞いに来てくれ、たった5分程の間にもかわらばるる来てくれたことがありました。そのことが私にとって、ものすごくうれしいものであり、仲間の大切さを感じることができました。

年々、大学祭実行委員会のメンバーは増えてきています。ただ、その中で後輩に必ず大切にしてほしいことを言い続けています。それは、「仲間への信頼」です。

3年間、榮凜祭を見てきていますが、この仲間への信頼は本当に必要だと思えます。なによりも、仲間を思いやり、仲間を考え、信頼する。簡単なように思えて難しいと思えます。ただ、この仲間を大切にすることで絶対に大学祭は成功すると私は思っています。

私はそのことを、1年のときに仲間から学ぶことができました。自分一人ではなにもできない。励ましあうことでお互いが成長しあうことを学ぶことができました。

そして、大学祭実行委員だけではなく、大学祭に参加する一般学生も榮凜祭に対する思いが強くなってきています。模擬店の看板を仲間につくりあひ、夜遅くまで仲間と

柔道愛好会松本彩佳さんが 北海道学生柔道体重別選手権 大会で初優勝!!

平成22年9月4日(土)に千歳市開基記念総合武道館にて開催されました、第22回北海道学生柔道体重別選手権大会で、本学柔道愛好会松本彩佳さん(人間科学部作業療法学科2年)が女子52kg以下級で初優勝しました。その結果、平成22年10月9日(土)・10日(日)に日本武道館で開催された全日本学生女子柔道体重別選手権大会に北海道代表として出場し、更に平成22年11月20日(土)・21日(日)に千葉ポートアリーナで開催された講道館杯全日本柔道体重別選手権大会にも出場しました。

松本さんは、6歳から柔道を始め、大学入学以前にも、マルちゃん杯少年柔道大会において全国大会出場等の実績があり、今年度、柔道を通して体力の向上と精神面の鍛錬を目指し、地域に柔道を普及させることを目的に、本学において柔道愛好会を設立、代表となりました。また、実習等が多い本学作業療法学科において文武を両立させ、地元の道場でも子どもたちに柔道の指導をしながら、団体設立初年度において今回の快挙を見事達成し、今後も、更なる活躍が期待されます。



なお、この度の功績により、平成22年度恵庭市において、スポーツ功労者表彰条例に基づき、スポーツ賞の受賞が決定しました。

優勝おめでとうございます!



バドミントン部が北海道地区 大学体育大会にて初優勝!!

平成22年7月10日(土)から11日(日)に北海道医療大学体育館にて開催されました、第57回北海道地区大学体育大会バドミントン種目(女子)で、本学バドミントン部が初優勝しました。

トーナメントの準決勝では北海道大学を3-0で、決勝では旭川医科大学を3-2で勝利し、見事、優勝しました。バドミントン部は平成16年7月21日に設立され、今年度は、作業療法学科3年日置史也君が代表となって、週に2回体育館で活動しています。「大学から始めた人も経験者の人もみんな仲良くにぎやかにバドミントンを楽しんでいます。」ということで、今後も更なる活躍が期待できそうです。

優勝おめでとうございます!



緒にステージパフォーマンスの練習を行ったりもしていました。

北海道文教大学の祭典祭はどの場面において、仲間とつくりあげる大学祭であると思っています。この仲間とつくりあげる大学祭を12回まで継続させた要因でもあります。

学生が一人一人となって創りあげている祭典祭は、年々規模は大きくなってきています。この、仲間と一緒に作り上げる祭典祭が今後もずっと続いていき、伝統として引き継がれていけばいいなと願っております。そして、その懸け橋としての一員になれたことが本当に自分を成長させ多くの仲間をつくることができました。

多くの学生が工夫をし、創りあげている北海道文教大学祭「祭典祭」に、今年度はぜひお越しいただけたらと思います。

「PT・OT学内就職説明会」開催

理学療法学科4年生は、2期生であり、作業療法学科4年生は、今年度初めての卒業生となります。本学入學後、1年生で、病院・施設の見学実習、2・3年生の臨床実習を積んできました。学内での学習活動に加えて、これらの学外での実習によって、専門性の基礎を学び、志す理学療法士、作業療法士としての意識を徐々に持ち、医療に携わる者としての勤労観や職業観を培う実習を体験してきました。そして、4年生は、3年生までの実習を基礎に、総合的な実習を長期間にわたって実施してきました。

4年生は、臨床実習参加の時期によっても、違いはありますが、9月頃から就職活動に臨んでいます。中には、実習後に就職活動に取り組む者、実習前から志願する医療機関を選択し、選考試験に向けて、履歴書、面接、小論文を準備している学生もいます。

受験する希望の医療機関を選択する為には、広く医療機関を知り、それぞれの持つ特色を理解することから始めなければなりません。学生は、資料の収集やインターネットの活用そして就職課の求人情報を閲覧し、関心のある医療機関の内容把握に努めています。そして、何よりも、詳しく確かな情報を得る為には、直接病院・施設の方々のお話を聞くことが大切です。このことから昨年度理学療法学科1期生で実施した就職説明会を今年度も理学療法・作業療法学科4年生および学科の教員全員参加の両学科合同の学内就職説明会を開催しました。その内容をお知らせします。

1 開催日 平成22年9月9日

2 参加医療機関

道内42の病院および介護老人保健施設、参加者80名(事務関係者、理学療法士、作業療法士)

3 内容

1) 人間科学部学部長挨拶

2) 学科紹介および就職委員紹介

3) 情報懇話会

医療機関の方と本学理学療法・作業療法学科教員および就職部による学生会館内学生食堂での昼食会に於いて、名刺交換と情報交換を行う

4) 説明会

本学体育館を会場に、参加医療機関42のブースごとに開催

(説明会の持ち方)

各ブース一回の説明時間は、25分とする

・学生は、事前に予定している関心のある医療機関の説明会に参加する

質問事項を用意している学生も見られ、詳しく、当該病院・施設を理解しようとしていました。一方、医療機関の方々は、学生の理学療法士や作業療法士としての意識やご自分の病院・施設をどう学生が理解し、受け止めているかなど、学生と医療機関の方々との熱心な交流が見られました。説明会終了後も質問する学生もいました。

医療機関を理解し、病院・施設の方に出会い、学生にとって、希望の病院・施設を検討する上で、意義のある説明会であったと思います。チームを組んで、説明

会で興味・関心のある病院・施設を直接訪問した学生も多くいました。

学生にとっては、どのようなことを重視して、志願先を選択していくか考えることに繋がる説明会であったと思います。心に残ったことは、さまざまだと思いますが、つぎのことを確認しながら、自分が選択する学習の機会でもあったと思います。

学生が説明会参加によって、病院・施設を選択する為には、関心を持ったと思われる内容を挙げたいと思います。

1 職場の雰囲気や仲間が良く、何かあれば相談できる先輩や仲間が居る

2 病院・施設が地域と密着し、住民にとって、大切な地域の医療機関である

3 ゆったりとした空間を持ち、建物の構造が患者の為になっている

4 患者の回復などに向けて、医療チームで取り組む体制になっている

5 急性期、回復期、高齢者対象の複合的評価・治療、総合病院など自分が担当したい分野である

6 患者の立場に立った診療体制が確立している

7 専門分野の最新医療が整備されている

8 新人教育が充実している

9 専門性を高める研修体制が充実している

10 医療機関の所在地など

「患者さんに信頼される為には、専門性と人間性を磨き、誇りを持って、日々、仕事に励む理学療法士であり、作業療法士でありたい」このことは、学内説明会に参加した全ての学生の願いでもあります。希望の病院・施設を選択し、内定獲得の為に努力して欲しいと思います。



学生支援と ユニバーシティ・ ブランディングの 相乗効果を狙う

～「Microsoft Office Specialist」と
「社会人基礎力グランプリ」を例に～

2010年12月17日に仙台国際センターで開催された経済産業省主催「社会人基礎力育成グランプリ2011」北海道・東北地区予選大会に、人間科学部こども発達学科1年生の寺江麻佑さん、長田夢さん、萩野夏生さん、古川渉美さんと共に参加してきた。

担当させていただいた、こども発達学科1年生配当科目「プレゼンテーション技術」の学習成果を『見える化(可視化)』させるためである。

驚くべきことは、小樽商科大学、秋田大学、山形大学といった名だたる国立大学を含む15大学(北海道からは7大学)が参加したなかであって、準優秀賞に輝いたことである(優秀賞は山形大学、準優秀賞は本学の他に秋田大学と東北芸術工科大学)。

他大学が4年生を主体とするメンバーで挑んできたのに対し、私は入学からわずか9カ月の1年生を連れていったのだが、彼女たちのプレゼンテーションは他大学と比較して見劣りするどころか、圧倒するものであった。彼女たちが得た経験と自信は、卒業までの長い時間のなかで大きく、大きく成長していくことだろう。

2010年8月、担当させていただいた、こども発達学科1年生配当科目「コンピュ-

タリテラシー」で獲得できたアプリケーションリテラシーを『見える化』させる目的で、「Microsoft Office Specialist」資格の取得を推奨した。推奨理由は単純明快。数あるこの種類の資格のなかで国際的に通用する唯一の資格であるからである。看護学科1年生と併せて60人弱の学生が受験し、100パーセントの合格率を残した。合格者のなかには、満点で合格するところか2011年夏にアメリカで開催される世界大会に招待されてもおかしくないほどの優秀な成績で合格した学生も多数見受けられた。招待状が届くか否か興味深い。

他大学での合格率は60〜70パーセント程度と聞く。決して他大学でもできないことではない。合格率の差は、単に『見える化』を意識した授業ができていくか否かの差である。

ここまで述べてきたことは、単なる例にすぎないが、多くの大学があるなかで、わざわざ本学を選んで入学してきた学生に対して、最大の付加価値を付けて卒業させてあげることが、我々教職員に課された重い責務である。

学生支援は、就職支援が主体となるという意識が根強いように思われるが、実は学生支援は入学直後から始まっているのである。本稿の例で示したような『見える化』された学生支援の行く先には、「北海道文教大学に入学した」という子どもたちの笑顔が見えはしまいか。



指導の菅原 准教授と喜びいっぱい!

「父母懇談会」開催

平成22年度の父母懇談会を、8月28日(土)の北見会場、9月5日(日)の函館会場に引き続き、10月10日(日)に大学祭に合わせて恵庭キャンパス会場にて開催いたしました。

3会場で450名強のご父母の皆様にご出席いただき、恵庭キャンパス会場では、伊藤後援会長から後援会の概況報告、鈴木理事長・学長をはじめ大学側出席教職員から大学の現況、教務・学生及び就職関係の報告の後、今年度理学療法学科を卒業し、現在、恵庭病院に勤務されている大谷貴之君から、就職体験談の報告がありました。その後、各学科別に説明会・個別面談を実施し、その後ご父母の皆様には、大学祭をお時間のお許しになる限りお楽しみいただきました。お陰様で、ご出席のご父母の皆様からは、「学業の状況など良く理解できた。」「今後このような懇談会を続けてほしい。」「といったご感想をいただき、今後もご父母の皆様と大学が緊密に連絡をとりあい、より資質の高い学生を育成するために、更に実りのある懇談会にいたしたく考えておりますので、よろしくご協力のほどお願い申し上げます。

恵庭キャンパス会場 10月10日(日)



函館会場 9月5日(日)



北見会場 8月28日(土)



■健康栄養学科

教育現場での活躍を期待!

2005年度に栄養教諭制度が発足し、健康栄養学科では、2007年度から栄養教諭免許取得者を輩出しています。養成の当初から、真に教育現場で成長期の児童・生徒の栄養教育に関わりたいという意欲と実力をを持った学生に限定して、少数精鋭で教育して来ております。その成果もあり、4年連続で、北海道の栄養教諭採用試験に合格者を輩出しております。また、この3年間の免許取得者59名の3分の1は、期限付きも含むと栄養教諭免許で仕事をしている状況です。

今年度は、杉山広大さん(岩手県出身)が北海道教員採用試験(栄養教諭)に、種市晴香さんが出身の青森県の学校栄養職員採用試験に見事合格!共に来春から、元気な児童の前で、「食に関する指導」や「給食指導」、生きた教材となる美味しくて栄養バランスのとれた安全な「給食の提供」に励むことになります。

二人は教職課程を履修している仲間(12名)と共に、恵庭の児童・幼児を対象としている北海道文教大学「食育教室」やオープンキャンパスのボランティア等に積極的に取り組み、切磋琢磨して力を付けてきました。

仲間の励ましと、二次試験対策に情熱を持ってご指導下さった海老子先生(写真)の存在も二人には大きな力になったと思います。

次に続く仲間や後輩の為に、教育の現場で常に前向きに活躍されることを期待します。



海老子先生と合格を祝う

■理学療法学科

卒業研究発表会を開催!

去る11月8・9日の両日、理学療法学科では平成22年度卒業研究発表会を開催しました。

当学科の4年生にとって総合臨床実習Ⅰ・Ⅱと卒業研究は、国家試験対策の以前にクリアすべき大きな課題です。夏から秋にかけて実習を受けた一部の学生は、昨年度末から夏休み前の時期に研究をまとめ、6月に発表会を行っています。その他多くの学生は実習終了後の9月頃から研究を形にし、今回の発表で全員の卒業研究が終了します。

学生たちにとってこの卒業研究は、自分自身で研究計画を立て、実際にデータを収集し、データ処理を行った結果について考察を加えるという初めての経験の場になります。特に大学外部の方々へ研究協力をいただいたケースでは、医療職としての礼儀等を改めて考えるよい機会になったようです。

発表された内容にはその試行錯誤の跡がそこかしこにみられ、中には教員から見ても興味深い結果を出したものや、(さまざまな意味で)かなり苦労したであろうものなど、バラエティに富んだ発表会となりました。しかしどの研究も様々なユニークな視点で構成されており、各学生の成長を見せられて良かったです。

これらが今後彼らの臨床での問題解決の基礎となってくれることを教員一同心より願っています。



卒研発表風景

■作業療法学科

高齢期作業療法治療学で学外授業に行きました!

10月20日、介護老人保健施設恵み野ヶ丘サポートにて本学作業療法学科2年生44名が、施設見学と施設での作業療法実践についてご指導をいただきました。

施設内は作業療法士によって工夫された車イス誘導ラインや障害によって使い分けることのできる各トイレ、車イスでも使用可能な高さ調整付洗面台や乾燥機、在宅復帰のための評価や指導のために使用される一般的なお部屋(台所、畳、トイレ、風呂、玄関)、家族介護教室などの作業療法士の仕事場を見学することができました。

また、作業療法士の浅野葉子先生から介護保険サービスや作業療法士が扱うリハビリテーション実施計画書、更に、作業療法実践についても、ご紹介いただきました。現場の作業療法士の働きぶりを身近に感じ、且つ、専門的な視点で学習のできた貴重な時間でした。



熱心にメモを取る

■看護学科

地域看護学実習を終えて!

看護学科の3年生は9月中旬から遠方では根室市や中標津町など多くの地域で地域看護学実習が始まり、10月末で終わりました。学生は北海道にしながら初めて訪れる所も多く、実習時間中は勉強に励みながらも週末は観光地を巡ったり、地元で開催される秋祭などに積極的に参加し、オンとオフを使い分けて充実した時間を過ごしていました。実習では初めて保健師さんと一緒に家庭訪問し、ご高齢の一人暮らしの方への保健指導の実際を間近で見学するなど、病院とは違う場所での看護職の活動を体験していました。また保健所では口蹄疫対策のニュースでよく見た防護服の着用も体験し、感染予防のために着用するよりも着脱する時の難しさを実感し、防具服を着用したまま作業をすることのつらさなど、今まではテレビなどの情報の中でのできごとを実習で体験し、そして社会問題の一端を学習の場で感じていました。

看護学科の3年生後期は臨地実習が続いていますが、学生は自分の健康管理の大切さを実感し、健康でなければ患者さんの側にも立てないと専門職としての自覚が芽生えています。



家族介護予防教室に参加(入浴介助機器の体験)



保健センターにて家庭訪問準備中

京谷和幸氏講演会

’08北京パラリンピック 日本選手団主将

11月22日(月)PTA主催の講演会として、’08北京パラリンピック日本選手団主将京谷和幸氏講演会が、高校体育館で行われました。

京谷氏は、本校サッカー部監督舩田先生の室蘭大谷高校時代の後輩にあたり、17年前までプロサッカー選手として活躍していました。1993年のJリーグ開幕の半年後、22歳のときに事故で脊髄を損傷。みぞおちから下の感覚を失い、もうサッカーができない・・・、そんな失意から立ち直ったのは、妻・陽子さんの笑顔を見たいという気持ちがあったからだそうです。

そして車いすバスケットと出会い、2000年のシドニー大会から3大会連続で日本代表となり、’08北京パラリンピックでは日本選手団の主将を務めました。



「夢を持つことの大切さ」というテーマで、プロサッカー選手の華やかな時代から一転して車椅子生活になってからの心境や周りの変化、そして、出会いの素晴らしさを通して、出会いはチャンスであり自分を大きく成長させてくれるきっかけであること、また常に感謝の気持ちを持ち続けることの重要性を力強く語ってくださり、生徒達も京谷さんのお話しに熱心に耳を傾けていました。

講演終了後、実際に京谷さんが車椅子バスケットの実演をしてくださり、シュートやドリブルを披露してくださいました。

また、京谷さんからアドバイスをいただきながら、バスケット部員達も車椅子バスケット体験をしました。



附属幼稚園の二学期は「豊穡の秋」

附属幼稚園の二学期は、8月から12月までです。夏から冬にいたる気候変動の大きな時期ですが、幼稚園児達にとっては一番充実した生活を送ることのできる時です。

一学期でほぼ園生活の仕方を身につけた子ども達は、試行錯誤を繰り返しながら確かな成長を遂げようとしています。それぞれの子のやり方でいきますが、そのときに集団での体験が有効



です。幼稚園における「行事」は、見ていただくことも加味されて、子どもの成長が輝くように表される時です。本年度も、9月の運動会では、「目的意識を持って活動する幼児たちの姿」や「父母と共に参加し、あふれんばかりの喜びの表情」に出会うことができました。

運動会を経て、幼児達は「質的变化」(心の成長)を遂げました。10月の誕生会はそのれまでと異なる落ち着いた参加態度でした。さらに、興味関心を深め意欲的に園生活を送る子ども達に次のお楽しみは、11月の「発表会」と12月の「クリスマス音楽会」です。日常とは異なる子どもたちの「自らを発揮した姿」を楽しみにしています。

北海道文教大学 2011年度 入試日程

入試区分	出願期間	試験日	合格発表	手続締切
一般入試	I 期	1月12日(水)～1月26日(水)	2月1日(火)	2月8日(火) 2月9日(水)～2月18日(金)
	II 期	2月14日(月)～3月1日(火)	3月4日(金)	3月10日(木) 3月11日(金)～3月22日(火)
	III 期	3月7日(月)～3月18日(金)	3月23日(水)	3月24日(木) 3月25日(金)～3月29日(火)
特待生入試	B日程	1月6日(木)～2月1日(火)		2月11日(金) 2月14日(月)～2月25日(金)
	C日程	2月14日(月)～3月1日(火)		3月10日(木) 3月11日(金)～3月22日(火)
センター試験 利用入試	前期日程	1月6日(木)～2月1日(火)		2月11日(金) 2月14日(月)～2月25日(金)
	後期日程	2月14日(月)～3月1日(火)		3月10日(木) 3月11日(金)～3月22日(火)
特別入試 (社 会 人 婦 国 生 等 外 国 人 留 学 生)	後 期	1月31日(月)～2月14日(月)	2月16日(水)	2月18日(金) 2月21日(月)～3月7日(月)
編入学	後 期	1月31日(月)～2月14日(月)	2月16日(水)	2月18日(金) 2月21日(月)～3月7日(月)

※一般入試 I 期の試験会場は本学(恵庭市)・帯広市・青森市の3会場で行います。

文教模試2010開催

高校3年生を対象とした「文教模試2010」が10月9日(土)に外国語学部国際言語学科主催で開催されました。科目は「サクセス英語」と「サクセス国語」。英語と国語はほとんどの学科で必修のため、本学を目指す167名もの事前申し込みがありました。

今回の模試は、本学では初めての取り組みです。各学科を目指す高校3年生が、本番さながらの表情で試験問題に取り組みました。自己採点の後、問題出題者から講評があり、受験生は真剣にメモを取っていました。

2月1日(火)に実施される一般入試(I期)に向けて、自分の実力を見極める一日となったことと思います。



大盛況!キャンパス見学会 2010

訪問日	団体名	学年	人数
5/13(木)	登別青嶺高校	2年生	27名
7/14(水)	恵み野中学校	3年生	114名
6/3(木)	大樹高校	3年生	5名
6/17(木)	江別高校	2年生	1名
6/17(木)	札幌厚別高校	2年生	34名
	室蘭東翔高校	1年生	27名
6/23(水)	双葉高校	1年生	68名
7/6(水)	旭川龍谷高校	3年生	3名
9/30(木)	旭川南高校	1年生	80名
10/1(金)	北海道文教大学明清高校	1年生	25名
10/14(木)	小樽桜陽高校	保護者	19名
10/15(金)	広島県立海田高校	2年生	33名
10/21(木)	進学について考える会	中学生の保護者	35名
10/29(金)	石狩翔陽高校	1年生	40名
11/4(木)	追分高校	2年生	6名
11/5(金)	厚真高校	2年生	32名
12/20(月)	恵庭北高校	2年生	21名

【旭川南高等学校】

1年生約80名の生徒たちは、11:00にバスで大学に到着しました。

入試広報課から大学概要説明の後、理学療法学科の体験講義を受講しました。テーマは『理学療法～人生を創る仕事～』。通常であれば90分の講義を40分に短縮し、高校生が理解できる内容で特に将来、理学療法士を目指す生徒たちは、身を乗り出して聞き入っていました。

昼食は待ちに待った「学食体験」。特に人気のあったメニューは、学食定番のラーメンとカレーライスです。

午後は、2つのグループに分かれ看護学科の体験演習を受講しました。『妊婦体験と新生児のバイタルサイン測定』では、妊婦体験セットを使い、妊娠時の母親の身体的苦勞を体験しました。また、バイタルサイン測定ペーパーを使い、聴診器を用いて赤ちゃんの鼓動を聞いたり、抱き方を学びました。『かんたん体位変換』では、ベッドで患者さんを寝かせたり起こしたりする技術を学びました。この体験を通して、人の命に関わる「看護師」という仕事に興味を持てただければと考えます。



【北海道文教大学明清高等学校】



看護医療進学プログラムの1年生25名の生徒が、理学療法学科、作業療法学科、看護学科の体験講義・実習体験を受講しました。

理学療法学科では、骨の模型を使い、関節の構造について学びました。

「学食体験」をした後、看護学科の『保健福祉行政論』の講義を受講。最後に作業療法学科の実習体験で、革細工の加工を体験しました。リハビリ・看護分野に触れた一日で、これからの学業意欲にプラスになってくれることを願います。



パンフレット、募集要項(願書)、過去問題を送料とも無料でお送りします。

大学案内・願書・過去問題の
申し込み先

入試広報課

☎ 0120-240-552 Fax:0123-34-1640

<http://www.do-bunkyo-dai.ac.jp>

高校2年生
対象!

春のオープンキャンパス開催!

参加高校生にもれなく「JR オレンジカード」「大学グッズ」プレゼント! JR(快速)を使って「通学体験」をしよう!

開催日 平成 23年 3月 25日(金)
10:00より

内 容 体験講義、実習体験、学食体験、キャンパスツアーほか

事前
申込み
先 TEL:0120-240-552
HP:www.do-bunkyo-dai.ac.jp

アクセス 千歳空港行き快速「エアポート」で札幌駅から23分、
恵庭駅下車徒歩8分

